

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成28年度第1回高松市文化芸術振興審議会
開催日時	平成29年2月23日(木) 18時30分～20時20分
開催場所	高松市役所 3階 32会議室
議 題	(1) 会長・副会長の選任について (2) 高松市文化芸術振興計画に掲げる事業の進捗状況について (3) 文化芸術振興計画の新規事業について (4) その他 今後のスケジュールなど
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	青山委員、甘利委員、金川委員、鹿庭委員、鎌田委員、北岡委員、島田委員、多田委員、田中委員、谷委員、橋本委員、林委員、若井委員 計13人(2人欠席)
傍 聴 者	0 人    (傍聴席4人程度を確保)
担当課および連絡先	高松市文化芸術振興課 087-839-2636

### 審議経過及び審議結果

会議を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。

(1) 会長・副会長の選任について

高松市文化芸術振興審議会規則第2条第2項の規定に基づき、委員の互選により、橋本委員が会長に選任された。

会長は、同条例第2条第2項の規定に基づき、島田委員を副会長に指名した。

また、橋本会長から本日並びに今後の会議について、原則公開とすることを説明し、委員全員がこれを了とした。

(2) 高松市文化芸術振興計画に掲げる事業の進捗状況について

平成27年3月に策定にされた「高松市文化芸術振興計画」に掲げる事業の進捗状況について、事務局から説明し、次のとおり意見があった。

<人財育成>

(委員)

・アートマネジメント講座等の充実及び人材育成について、できるだけ早くいろいろなことをやっていただきたい。具体的な実施状況はどうなっているのか。

(事務局)

・平成 29 年度は、高松市アートディレクターによる新規事業として、ファシリテーターの養成講座を企画している。また、平成 28 年度 3 月末には、そのプレとなる講座も開催することとしている。

(委員)

・若手漆芸作家の活動支援については、産業振興課ではなく、文化芸術振興課の所管ではないか。

・ファシリテーターの育成について、作家と鑑賞者、両者の意見を汲み取り、繋げられる“繋ぎ手”となる人材の育成が必要である。

(事務局)

・中立的な立場のファシリテーターであるべきと考えている。

(委員)

・伝統工芸・芸術関係の団体も、高齢化が進み、次世代の育成・世代交代が課題となっている。人財育成の講座も検討していただきたい。

<盆栽>

(委員)

・盆栽はこの計画の中には入らないのか。話題となっており、将来性があると思うので検討してほしい。

(事務局)

・「地域固有の伝統工芸及び民俗芸能、そのほか地域に根ざした文化活動の把握と継承・活用・支援」の事業の一つとして入っており、盆栽 café 等により、文化的側面の強調を行った。今後も、産業者の育成や海外発信等、さらに取り組んでいきたい。

<景観>

(委員)

景観は、資源である。都市計画課の景観計画により、それを維持・改善する工夫がされているが、助成金の利用が少ないことが残念である。景観の維持・改善に向けた課を超えた協力が必要である。

・景観を保存するには、基本となるデザインを決定し、そのポイントを守っていくことが必要である。強化すべきポイントについて見直したら良い。

・香川県にある有名な建築、イサム・ノグチをはじめアートの見どころをまとめた冊子を作成し、配布すべきである。学校教育課と連携し、学校教育と結び付けていただきたい。

・どのように評価され、どのようにとらえたかまでを含めて解説できるようなものが必要。

(事務局)

・建築については、瀬戸内国際芸術祭 2016 夏会期に合わせ、冊子「めぐると高松 まち・建築編」を作成し、配布した。今後もこのような取組を展開していけれ

ばと考えている。

#### <アートディレクター>

(委員)

・アートディレクターの範囲を拡大し、いろいろなもの（街、人、アート等）に焦点を合わせたアートディレクションを行っていただきたい。さらに、高松市文化芸術ホール（サンポートホール高松）を管理・運営を委託する公益財団法人高松市文化芸術財団とも方向性を合わせ、アウトリーチを行っていただきたい。

#### <連携>

(委員)

・文化創造都市として、観光と文化が密接に関わっているので、それぞれの会議に関係者が入り、文化と観光の相互に視点が及ぶと良い。

#### <景観>

(委員)

・サンポート付近にはデザイン性を取り入れてほしい。

#### <連携>

(委員)

・コミュニティ推進課の行うゆめづくり推進事業は、各地区（校区）のコミュニティ協議会が、観光、歴史等のマップや冊子を作成し、地域内外にPRを行っている。これを市内の建築物の周知にも繋げていけないか。

#### <人財育成>

(委員)

・コミュニティセンターの講座について、今の時代や創造都市としての在り方に合わせ、作り方を見直していくべきである。

#### <アートリンク>

(委員)

・2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、全国的に、障がいとアートに関する取組は増加の傾向にあると思うが、アートリンク事業については、対象となる福祉施設の増加に対し、予算が増えていない。力点を置いているのか。

(事務局)

・高松市の予算全体が非常に厳しい状態であり、文化事業についても、良くて現状維持となっているが、努力していきたい。

#### <全体として>

(委員)

- ・コミュニティセンターを会場とし、大人と子どもが1つのアート作品制作するようなワークショップを開催できないか。
- ・学校教育課の実施する、イサム・ノグチ庭園美術館の引率する教員の利用料補助にいて、小・中学校だけでなく保育園等も対象とするべきである。

<アーティスト・イン・レジデンス事業>

(委員)

- ・アーティスト・イン・レジデンス事業について、平成27年、28年と会場が重なっている。開催会場の拡充と広報の工夫が必要ではないか。

(事務局)

- ・アーティスト・イン・レジデンス事業の会場について、いくつか候補地を案内するも、アーティストの興味を引く場所が決まってきている。事前に会場を選定するなど工夫していきたい。また、広報については、アーティストとのやり取りに時間を要し、遅くなってしまった。今後改善したい。

<アートマネジメント講座>

(委員)

- ・アートマネジメント講座等の充実及び人材育成として、市内の中・高生を中心とした演劇ワークショップを開催しているが、小学生対象は考えていないのか。

(事務局)

- ・演劇ワークショップの小学生対象について、今後リクエストしていきたい。

<アートディレクター>

(委員)

- ・アートディレクターによるネットワークづくりについて、実施した具体的な内容と、今後の予定について伺いたい。

(事務局)

- ・アートディレクターによるネットワークづくりについて、ファシリテーター育成ワークショップを通じて、繋がりを広げられる仕組み作りができたかと考えている。具体的に決まり次第、お知らせしたい。

<予算>

(委員)

- ・子育て支援課の増額と文化財課の減額の理由はあるのか。

(事務局)

- ・子育て支援課では、こども未来館開館に伴う予算が増額した。文化財課では、屋嶋城の整備事業が終わったため、減額している。

(委員)

- ・アートディレクターに係る予算については、決算額が非常に少なくなっている

が、人選に時間を要したためか。

(事務局)

・アートディレクターの選任は早い段階で行ったが、平成27年度は個人の活動が多忙であったためである。今後は、アートディレクターにファシリテーター養成講座などの事業をしていただけることとなっている。

<アートディレクター>

(委員)

・アートディレクターの配置は、高松市文化芸術振興計画策定の目玉であったが、現在のところ、まだ十分に機能していない。特定の分野におさまらず、高松市の全体を見たアートマネジメントを行っていただけるよう、今後の活躍を期待している。

(3) 文化芸術振興計画の新規事業について

「高松市文化芸術振興計画」に掲げる事業のうち、新規5事業について事務局から説明し、次のとおり意見があった。

<マイ・ウルシ・カップ事業>

(委員)

マイ・ウルシ・カップ事業について、カップではなく、漆の箸を取り入れてはどうか。

(事務局)

・漆の箸についても検討を行った。箸で漆の本当の良さが伝わるのかという点、個人所有となるため毎年の購入が必要な点、低学年と高学年で長さが違うため4年生になった際に新調が必要という点が課題となった。

(委員)

・市が全てを負担する必要は無いのではないかと。漆の箸の購入費の一部を補助金として出してはどうか。

・関係課で協議を行う際には、漆の知識を持つ専門家も呼ぶべきである。

・学校給食の現場では、洗浄時の破損の心配等、漆器の導入に反対の意見が多いと思われる。導入には、現場の方に納得してもらうことが必要である。

・箸のように個人所有となると、強制力を持って要求することは難しいのではないかと。

・漆器は抗菌作用を持ち、給食食器にふさわしい。本物の漆器であれば、課題となっている高温熱風消毒にも対応可能である。

・1つの食器(マイカップ)を持つことで、一つのことを大切に扱うことを学んでほしい。

・漆等、高松市の持つ伝統文化に、子どもの頃から触れられる環境を整えていくことはすごく大切である。1つ1つ段階を踏み、高松が持つアートの力を皆が毎日の生活で楽しめるような環境を作ってほしい。

・漆のワークショップの開催の際、子どものみを対象とした場合に比べ、親子を対象とした場合、応募者が増大した。大人と子ども、親と子どもの繋がりを作る取組を市としても考えていただきたい。

<ホスピタルアート>

・ホスピタルアートについて、他の病院で行っているプロジェクションマッピング等は費用がかかる。プロジェクターの使用はどうか。

(事務局)

・本審議会でもいただいた意見を基に、来年度に向けて考えていきたい。

(4) その他

今後のスケジュールなどについて

以上をもって、本日の会議を終了することとした。

以 上